

世界経済の現状と展望

中 田 勝 紀

目 次

1. 世界経済の概観
2. 世界貿易の回復
3. 好調な米国・欧州経済
4. 先進国の賃金・物価動向と金融政策
5. 中国の金融デレバレッジの動き
6. FinTech

1. 世界経済の概観

18年3月の金融政策決定会合における世界経済の現状評価を、「緩やかな」成長という表現から「着実な」成長という表現に若干ながら前に進めており、われわれとしては、重い判断をした。

まず全体観として、18年1月に公表されたIMFの世界経済見通しにある17～19年の地域別の成長率とわれわれも大体同じような見通しである。IMFでは、世界経済全体で17年は3.7%成長の後、18年、19年は3.9%成長という見通しである。地域別の内訳をみると、米国は財政支出等の効果もあり18年に2.7%成長した後、成長が鈍化するという姿である。同様に、中国やユーロ圏でも、17年をピークとして少しずつ成長が鈍化してい

くと考えられている。一方で、15～16年は資源価格がやや弱かったために、成長がやや伸び悩んでいた資源国である中東やラテンアメリカの成長率は回復してくる見通しである。また、構造改革などで17年には成長率がやや鈍化したインドも成長率が高まってくると考えられている。こうした双方向の動きが打ち消し合う形で、18年、19年とも3.9%の等速成長が見込まれている。

このIMFの経済見通しで大きなポイントは、16年の中頃を境に見通しが久しぶりに切り上がったという点である。その前の数年間は4%程度の成長を見通していたものの、見通しの対象時期が近づくにつれて見通しを下げた方向にあった中、16年後半～17年にかけて世界経済回復の足取りがしっかりしてきた。つまり、久方ぶりに見通し



中田 勝紀（なката よしのり）

日本銀行 国際局長。1988年3月、東京大学法学部卒業。同年4月、日本銀行入行。98年国際決済銀行へ出向、2002年金融市場局調査役、05年金融機構局企画役、08年国際局企画役 兼 企画局企画役、09年国際局参事役 兼 企画局参事役、13年鹿児島支店長、15年金融市場局審議役 兼 国際局審議役、16年国際局審議役 兼 企画局審議役 兼 市場局審議役。17年4月、国際局審議役 兼 企画局審議役を経て、同年6月より現職。

（本稿は2018年3月19日に日本証券アナリスト協会で開催された講演会の要旨である。）